



創誠健和



旭川中学校 学校通信 2月号

1年を振り返ろう!

令和6年2月29日発行



残りの登校日数 3年生10日間 1・2年生15日間

いよいよ明日から年度の締めくくりの月、3月を向かえます。

日本では毎年4月に出会いが繰り返されます。そして3月に別れがやってきます。

私自身この別れの時期3月に、いつも振り返るのです。どんな人と出会った一年だっただろう。そう考えるのです。私という人間と出会った人は、私のことをどう思っているのだろう。どう評価しているのだろう。子どもたちは、校長も先生も選ぶことが出来ません。だからこそ、この先生でよかったと言える、言ってもらえる3月にしたいと考えています。

旭川市では旭川モデルとしてのいじめや不登校への対応等が求められる中、私はこんなことを考えます。人には誰にでも人に言えない悩みがあると思うのです。他人には「なあんだ」というようなことでも、その人にとっては命がけのことだってあると思います。これは、子どもたちにとっても同じことで、自分が嫌なことは、他人にとっても嫌なことだと感じる事ができ、人に優しく出来るようにするために、教育が必要なのだと思います。

学力や体力の向上はもとより、道徳教育をはじめ、全ての教育活動を通して子どもたちに優しさや思いやりの心を育てていくことが教育の使命だと思っています。

2月22日(木)に開催された「学校運営協議会」において以下の実践について、現時点での方針をお示しました。



次年度の構想から

取組1「未来を生き抜く力を育む」【逆境に負けない心を育む教育の推進】

○いじめや不登校へ対応し、かけがえのない命を自他ともに大切にする、逆境に負けない心を持つ生徒を育みます。

取組2「学びの環境を整える」【地域学校協働活動と一貫教育の推進】

○ふるさとへの愛着と誇りを持ち、自分の人生を自ら切り開くことができる確かな学力と正しい判断力を身に付け、豊かな人間関係を築くことの出来る生徒の育成を小中一貫して目指します。

取組3「子どもたちをともに育て豊かな学びをつくる」【振る舞い教育の推進】

○意識だけではなく行動化に取り組み、生徒、教職員、保護者、地域住民が自らの「振る舞い」を意識し行動出来るよう変革を促し、「あさひやまPride Project」を小中が連携しさらに推進します。



次年度も全生徒に対する「学びの保障」と「働き方改革」を重点目標に掲げ、いじめのない、世界で一番「優しい学校」を目指します。

今年度、3年生とは後10日間！1・2年生とは後15日間！「子どもを見る目、活かす知恵」を大切にし、全教職員でしっかり子どもたちに向き合って参ります。

管打八重奏

アンサンブルコンテスト金賞受賞

2月17日(土)北海道吹奏楽連盟と朝日新聞社が主催する第55回北海道アンサンブルコンテストが札幌市で開催されました。

本校からは管打八重奏で出場。我が校のためだけに林大地氏によって作曲された「白銀の霊峰」を演奏し見事、金賞に輝きました。



☆市内大会・コンクール結果

【旭川地区中学生新人卓球大会】

第1位 入江佳輝さん 第3位 片山晴聖さん 第5位 坂田虎鉄さん

【令和五年度旭川市児童生徒作品展】

特別賞 宇佐見 紬さん 入選 三宅孝太さん 鷹野結理さん 小檜山慈理さん

【第28回「安全・快適アイデア」コンテスト】

奨励賞 白崎勇斗さん



卒業式の合唱曲に込められた思い

卒業生による合唱曲は「群青」。

「群青」は2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた福島県南相馬市立小高（おだか）中学校の生徒達と小田美樹先生によって作られました。東日本大震災から13年が経ち、現在の中学生はあの時のことを知りません。

小高中学校の校区は東日本大震災による原発事故のため、多くの住民が北海道から九州まで、散り散りに避難しなければいけませんでした。その時、生徒は106名いたのですが、2人は津波の犠牲になり、97人が避難のために離れて行ったそうです。残った生徒はわずか7名。2年生になったその生徒達が大きな日本地図に仲間の顔写真を貼り付けながら、「遠いね」「でもこの地図の上の空はつながってるね」など、口々につぶやき出したそうです。

小田先生は生徒達をつぶやきを拾い、綴っていきました。その生徒達の声をつなぎ合わせて歌詞が出来上がったのが「群青」です。

ああ あの街で生まれて君と出会い たくさんの思い出を抱いて一緒に時を過ごしたね
いつでも君がいたね 当たり前が幸せと知った
三月の風に吹かれ君を今でも想う 響けこの歌声 響け遠くまでも あの空の彼方へも
大切な全てに届け
きっとまた会おう あの街で会おう 僕らの約束は 消えはしない 群青の絆

コロナ禍にあってもしっかりと中学校生活を送ってきた第77回卒業生は、コロナが明けたはじめての卒業式、きっと、様々な想いを胸に、この合唱曲を歌い上げてくれることと思います。